

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく2

国立市立国立第七小学校

平成26年7月9日 NO.31 (131)

花ちゃん 「モンタ博士、フウセンカズラを持（も）ってきました。」

オー君 「え、ふうせん？風船（ふうせん）がどうかしたの。」

花ちゃん 「あら、いやだ。フウセンカズラという植物（しょくぶつ）よ。オー君は初（は）めて見たの。実（み）の形（かたち）が風船ににている、『カズラ』というのは『つるになる植物』という意味（いみ）なのよ。」

モンタ博士「よく知（し）っているね。本当（ほんとう）に風船みたいで楽（たの）しいね。」

オー君 「どれどれ、おいらやってみるよ。ポンポン。本当に紙風船みたいだ。」

モンタ博士「もともとは日本の植物ではなくて、北アメリカ原産（げんさん）の植物なんだよ。」

オー君 「ポンポンついたら、風船みたいにわってみたらおもしろいかも。エイ！ポン。
なかなかいい音（おと）がするな。こいつは遊（あそ）べておもしろい。」

モンタ博士「実（み）が熟（じゅく）すと、茶色（ちゃいろ）になるんだよ。中の種（たね）は白い所（ところ）があるから、目や鼻（はな）を書き入れてみようか。ほら！おサルさんの顔（かお）みたいになったよ。」

花ちゃん 「この植物はね、とっても育（そだ）てやすいのよ。5月ころに種まきをしてから、ぼうなどを立てておくと、よじ登（のぼ）って風船の実（み）がどんどんで
きるのよ。」

オー君 「風船は風（かぜ）に飛（と）ばされるな・・・フムフム。」

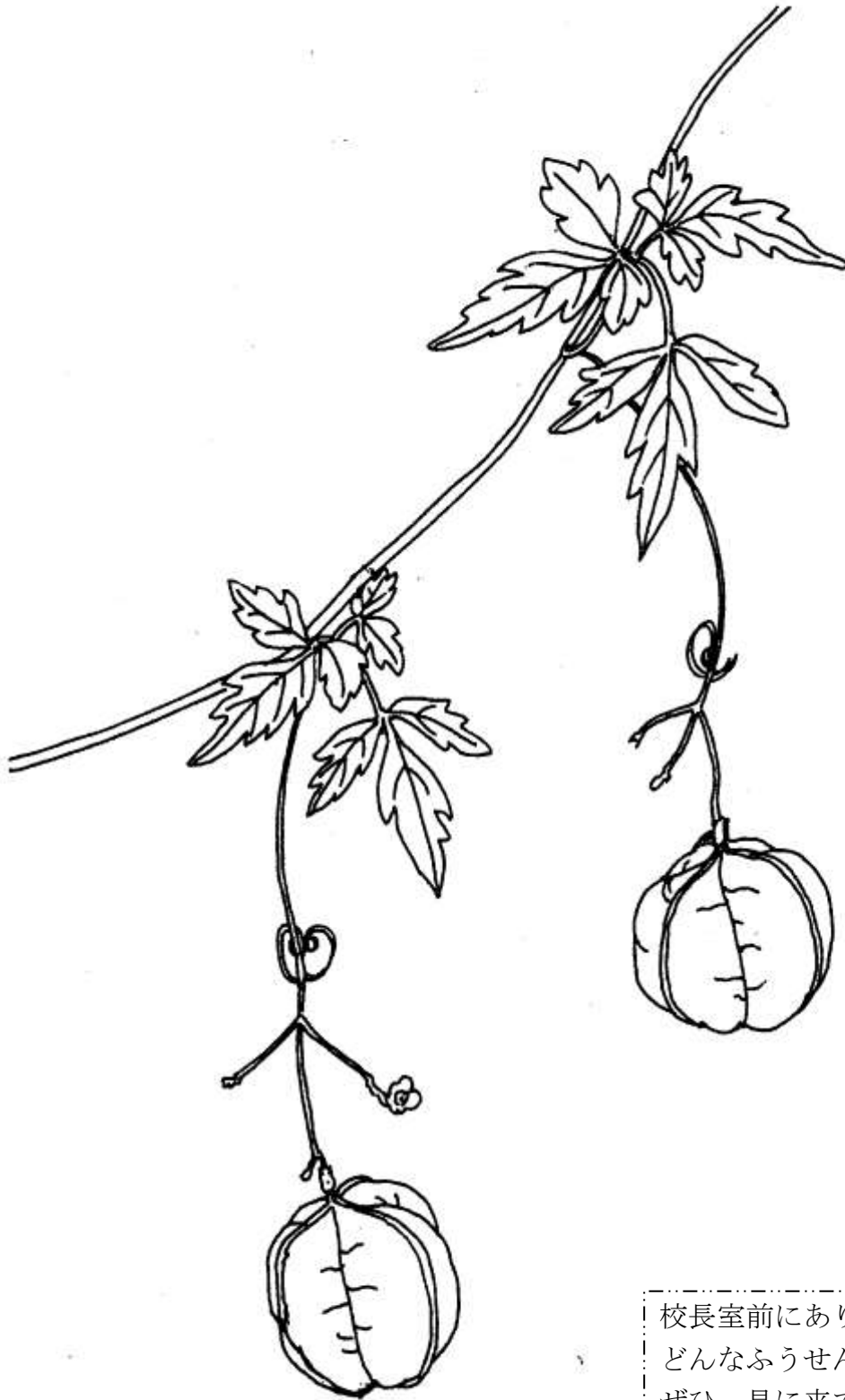
花ちゃん 「どうかしたの。オーくん。」

オー君 「この前、オナモミのお話（お話し）があっただろう。種（たね）が何かにひっかかって、種（たね）を遠（とお）くへ動（うご）かすというお話（お話し）。種（たね）のたびのお話（お話し）・・・フムフム。」

花ちゃん 「それが、どうかしたの。オー君。」

オー君 「このフウセンカズラは、とっても軽（かる）いからちょっとの風でも動くね。
植物（しょくぶつ）が種（たね）子をあちこちへ動（うご）かすのに、風（かぜ）も関係（かんけい）してるんだね。」

モンタ博士「いいところに気がついたね。これからも、いろいろと調（しら）べてみようね。」



校長室前にあります。
どんなふうせんか、
ぜひ、見に来て下さい。

フウセンカズラ（ムクロジ科）

白い花は小さくてあまり目立ちません。直径3センチくらいの風船のような果実を鑑賞するつる植物です。自然には生えている植物ではなく、花屋さんなどで種を売っています。ムクロジ科という珍しい科の植物で、他には中国原産のオオモクゲンジ・モクゲンジという落葉高木があり、これもフウセンカズラのような実ができます。オオモクゲンジは、八王子市の旧都立高尾自然博物館前に何本か植えられています。